2018-2019年度今治ロータリークラブ週報

No.27

第２７回例会報告（3月7日）

【 出 席 報 告 】

・会員数　５３名　・出席数　３５名　・欠席数　１８名
・当日出席率　６９．３８％　・前々回修正出席率　１００％
＜欠席会員＞別府、原、平田、片山、冠、木村、小堀、久米、楠橋、西本、大澤、坂本、田崎、八木(正)、山本
〔免除会員〕青野(明)、檜垣(巧)、白石
〈2/21 欠席補填〉(2/10 DTTS)重松　(2/25 今治北)原、平尾、平田、城山、片山、近藤、楠橋、桑森、眞鍋、越智、坂本

◇会長報告　・3月3日(日)に開催予された今治北RC主催の水源の森事業に出席された皆さま、雨の中ありがとうございました。

◇幹事報告　・3月のロータリーレートは1ドル110円です。

◇親睦活動委員会・誕生日スピーチ・八木真人会員(42歳)：一番上の子どもが中学校に上がり、少し環境が変わります。昨年、一級建築士より上とされる資格を取り、長かった資格との戦いも終わりを告げました。今年は父から代替わりする準備を着々と進め、節目の年として飛躍できればと思います。
▼村上修三会員(63歳)：子どもの頃はことあるごとにお前は浅川の松から拾ってきたと冗談で言われましたが、それは今の子どもに通じません。世代間ギャップを感じます。そうしたピント外れの話をしないよう、そして迷惑を掛けないよう健康に留意してやっていきます。

国際奉仕委員会アワー

◆青野淳一委員長『国際奉仕について』:国際奉仕は大きく分けてリソースとサポートのモデルとされる世界社会奉仕プログラム(他国で行う奉仕活動)、国際レベルの文化および教育交流(長短期交換留学など)、ロータリー特別月間(3月は水と衛生月間)、国際大会の4つになります。▼まずRCがアメリカからヨーロッパへ広まった後、親睦のために世界大会をしようという機運が醸成されました。それが今のような人道的プログラムに変わったのは第一次世界大戦さなかの1917年、社会奉仕は相互扶助ということで、家を追われた人や傷病者に国を超えて物資を支援したのが始まりです。その年、ルーズベルト米大統領が「国同士の約束はどうなるかわからないが、ロータリアン同士が仲良くしていれば世界平和につながる」と発言しています。▼1922年、国際奉仕が正式に始まり、1934年から37年にかけてはポールハリスが極東を訪れています。しかしその甲斐無く第二次世界大戦が勃発、独豪伊に次いで日本もRCを解散しました。この2回の世界大戦を経て国際連合が結成されますが、その国連憲章の制定には米国の依頼を受けた49名のロータリアンが関わっています。日本の国際奉仕第1号はインドでのハンセン病(旧癩病)支援(救らい事業) 。1975年に多剤併用療法が確立されたことを機に行われました。▼2011年まで行われたWCS(World Communication Service＝世界社会奉仕)では海外に赴いて現地のロータリアンと共に活動を行っていました。例えばフィリピンで小学校60校へトイレや浄化施設を設置したり、井戸水や雨水を飲み水や水力発電に利用したりしています。ところが現地のRCに送金してもお金がなくなるなどの問題がありました。そこでRIは申請を厳しくするために地区と財団の補助金を使う「リソースとサポートのモデル」に改めたのです。▼教育プログラムとして当クラブは短期交換留学を行っていますが、次年度は明徳高校矢田分校の越智さんを派遣することになりました。米山記念奨学生のリーさんのように国際性豊かな人になってくれればと思っています。私たちの手助けが国家間の架け橋になりますように。

◇グエン・ティ・タオ・リーさんスピーチ・今日が最後の例会出席になります。米山記念奨学生になって良かったと誇りを持って人生を楽しく過ごしていきます。カウンセラーの岡本会員、重松会員が例会やイベントにも連れて行ってくれて感謝しています。先日の新年夜間例会では二次会のカラオケで『涙そうそう』を歌いました。今日も涙に暮れるかなと思いましたが楽しい思い出ばかりで笑うしかありません。今は東京で働くため引越準備に追われています。10年後を目処にベトナムへ帰り、日本との架け橋になるべくベトナム学友会を申請、発足させようと思います。2年間、本当にお世話になりました(涙)。
＜ゲスト＞米山記念奨学生　グエン・ティ・タオ・リー様
愛媛銀行今治支店今治グループ　副支店長兼ローンセンター長　見乗　敏章（みのり　としあき）様

次回例会（3月１４日）

【 清掃奉仕・早朝例会 】

日　時　：　２０１９年3月１４日（木）　早朝６：３０清掃開始　７：００例会開始
場　所　：　吹揚公園
※芋粥、飲み物をご用意しております。雨天の場合は７時より例会のみ開催。
ロータリーバッジの着用をお願いします。